

# 74 新破天荒

令和四年版  
創刊 第七号



## 天高く 馬肥ゆる秋

二学期は体育大会を始め、部活動の新人大会など、七十四回生が活躍できる場面が多くあります。姫路南高校生として、お客様から主役の座を勝ち取っていく時期にもなってきました。

数多くの成果が生まれる二学期であることを期待したいと思います。

一方で、未だに校歌に触れる機会がなく・・・。九月十一日に、姫路競技場で試合をしているときに、隣の姫路球場から流れてきた校歌が、耳に吸い込まれて来ました。

実は、亡き母は本校卒業生であり、卒業数年後に全国高等学校野球選手権大会に出場した母校の応援に参加したこと、出場選手に私の同級生のお父さんがメンバーで活躍していたことなどを、私が高校時代に、母から聞かされたことをふと思い出しました。いつの時代も、母校への想いは熱いものを感じますが、そこにある大切なものは、やはり校歌であると思います。

この想いは、歴代の勤務校に対しても同じですが。

なかなか触れる機会のない姫路南高等学校校歌ですが、じっくり歌詞を読み込んでみませんか？

澄み晴れてさやるかげなし  
白鷺の羽ばたきつよく  
かけり飛ぶつばさののりて  
はこぼるる青雲のはて  
いさぎよき学風かおる  
高らかにうたいたたえん  
おお 姫路南高校

夢前や 室の古道  
網干鴻 大津茂 揖保よ  
朝日山 広畑かけて  
海光に京見はことう  
わかき日の感激こめて  
ほがらかにうたいたたえん  
おお 姫路南高校

たまきわるいのちのかぎり  
春秋のうつろいよそに  
いばら生うきびしきみちも  
窓の雪 蛍の光  
きょうという世代に生きて  
ほごりにうたいたたえん  
おお 姫路南高校

さて、今は校歌演奏が精一杯ですが、在学中には母校の校歌を、声高らかに斉唱することができる日が来ることを祈るばかりです。

## 進路希望調査 および 文理選択

二学期には、二、三学年での文理選択を決定する時期です。九月中旬の学年集会で説明会を行い、九月下旬には第一回文理選択希望調査を締め切りました。この調査をベースに担任と面談を行い、本調査（基本的に一次調査と異なるものではない）へと進めていきます。

一つの目安として、二学期当初に進路希望調査を行いました。左下図はその集計です。文理選択を真剣に悩んでいる者の一方で、少し気にして頂きたいのは日常生活です。それは、平日の学習時間が一時間に満たない者が十五パーセントに上っています。それに見合う何か夢中になれるものがあって、

### 学習時間が物理的にない！

というのであれば良いのですが、

### ただ何となく

毎日が過ぎていくということであれば、とても勿体ない。

勿論、塾などで学ぶ時間を除いての家庭学習の時間を、ほぼ零と答えている生徒もいるかもしれませんが、**主体性・積極性**から生まれる失敗をたくさん経験してほしいものです。

失敗を恐れずに、是非、数多くの自分の中に「ファーストペンギン」が見て取れるように、些細な行動、些細な一歩を踏み出す勇氣を大切に下さい。

74回生 第2回進路希望調査 集計 2022年9月実施

【1】文理選択について

文系	113
理系	64
未定	22
計	201

【2】①卒業後の進路について(第1志望)

国公立大文系	43
国公立大理系	47
私立大文系	29
私立大理系	10
国公立短大文系	1
国公立短大理系	0
私立短大文系	3
私立短大理系	0
看護の専門学校	5
看護以外の専門学校	6
公務員	1
就職	4
未定	50
計	201

【2】②卒業後の進路について(第2志望)

国公立大文系	12
国公立大理系	11
私立大文系	42
私立大理系	28
国公立短大文系	2
国公立短大理系	1
私立短大文系	1
私立短大理系	0
看護の専門学校	8
看護以外の専門学校	6
公務員	2
就職	2
未定	89
計	201

【3】①志望する学部や系統について(第1志望)

人文系	9
教育系	25
法学系	1
経済・経営学系	3
社会学系	5
語学・国際系	0
福祉学系	4
家政・生活科学系	4
芸術系	12
体育・健康科学系	8
看護系	25
工学系	2
農学・水産系	5
医・歯・薬系	7
未定	79
計	201

【3】②志望する学部や系統について(第2志望)

人文系	2
教育系	10
法学系	1
経済・経営学系	10
社会学系	8
語学・国際系	0
福祉学系	13
家政・生活科学系	7
芸術系	7
体育・健康科学系	3
看護系	11
工学系	3
農学・水産系	4
医・歯・薬系	2
未定	117
計	201

【4】学習時間について、①平日の平均学習時間

5時間以上	0
3～5時間	1
2～3時間	32
1～2時間	112
0～1時間	56
計	201

【4】②休日の平均学習時間

5時間以上	0
3～5時間	21
2～3時間	82
1～2時間	72
0～1時間	26
計	201

【5】①学習塾・家庭教師などについて

学習塾に通っている	39
家庭教師に頼っている	0
通信教育をしている	31
上記のいずれでもない	129
計	199

# 十月の予定

- 一日(土) 特色類型説明会
- 四日(火) ～七日(金) 二学年修学旅行
- 六日(木) 創立記念日(生徒休日)
- 十日(月) スポーツの日
- 十一日(火) 教育相談
- 十二日(水) 各種委員会
- 十七日(月) ～二十日(木) 中間考査 教育相談
- 二十五日(火)



空手部

女子個人 形 第二位  
女子個人 組手 第三位

私は今回の西播大会で、形競技、組手競技ともに県大会に勝ち進むことができました。けれど、十月末に控えている県大会では、そう簡単に勝つことはできません。なので、今の気持ちを忘れずにしっかりと目標をもって過ごしていきたいです。

県大会は西播大会とは違って、勝ち進むと近畿大会に出場することができます。しかし、勝つことだけを目標にするのではなく、やって意味のある試合をしたいと思っています。

そのためには、日々の練習がすごく大切になると思います。ただ、いつものように練習をするのではなく、自分には何ができるか、何が足りていないかなど。状況や場合にに応じて頭で考えられるようにしたいです。

また、自分のことだけにならないよう、仲間とも支え合いながら、切磋琢磨していこうと思います。残りの一ヶ月、練習できる時間を有効に、大切に使い、後悔のない大会になるよう、練習に励んでいきたいです。

(4組 宮原 葵)

女子個人 組手 第二位

私は九月十日に行われた西播地区大会の個人組手競技で準優勝することができました。

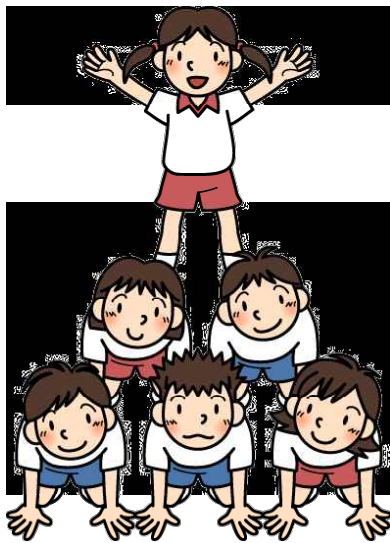
嬉しい気持ちはもちろんありますが、個人戦では二人入賞できたにもかかわらず、団体戦では相手の空気に吞まれてしまい、力を発揮しきれずに悔しさの残る結果となりました。

また、全体的に自分の力不足を感じ、たくさんの課題が生まれました。

今回の反省と経験を生かして、日々の練習では、チームでお互いを高め合い、県大会では全員が成長した姿を見せられたらと思います。

西播大会で感じた嬉しさと悔しさを忘れず、十月に行われる県大会で、個人戦では後悔の残らない試合をし、団体戦ではチーム一丸となってベスト8に残り、近畿大会に出場できるように頑張ります。応援よろしくお願いします。

(4組 梶原つかさ)



男子個人 組手 第三位

今回は個人組手三位という結果になりました。前回の西播大会では二位でしたが、今回は三位になりました。やっぱり悔しいです。

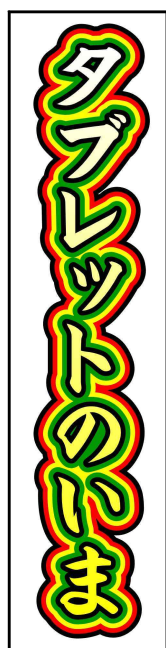
前回より成長はしていると思うのですが、自分の目指した場所には立てませんでした。

県大会ではもっとレベルが高くなります。このままでは県のレベルについていけないと思います。そのレベルについていくには日々の練習をコツコツと続けるしかないのですが、それでも届かないものがあります。今までもコツコツと続けてはいたもののがむしやりにやっていたように思います。

これからは、練習にしっかりと自分なりの目標を立てていきたいです。顧問の先生が仰っていたように、闇雲に練習して汗をかいても意味がないので、一回一回の練習で目標を立てて、レベルアップできるように頑張りたいです。

そして、県大会で入賞するという目標に、できるだけ近付きたいです。

(3組 船田勇志)



九月中旬に、七十四回生タブレット使用に関するアンケート調査が、生徒のグループフォームを通じて行われました。

このようなアンケート調査や、緊急の連絡などについては、非常に有効活用できていると思います。他にどのような活用がされているかを、この機会に何例か紹介したいと思います。

- ・授業で行った内容のスライド配信
- ・各自の授業ノートのまとめを写真で撮って、生徒が共有できるフォルダに提出させる。
- ・他の生徒のまとめ方や、思考などを参考にし、自分の復習にフィードバックさせる。
- ・応用問題の解答や、板書に時間がかかる問題の解答を写真で撮り、授業では基本演習等の時間が確保できるようにする。
- ・撮った画像は、休日等の時間があるときに、ゆっくり思考をさせる。
- ・グラフの学習で、タブレットを利用して生徒自身の手で、視覚的な学びを実感させる。
- ・総合的な探究の授業では、各々で情報収集の活用を積極的に行い、グループ活動を活性化させている。

より効果的な活用法をまだまだ探っている状況ではありますが、保護者の皆様にもより効果的な使用状況が数多く報告できるよう、研鑽していきたいと思えます。



# 七十四回生の 二学期スタートは。。。

二学期も一ヶ月が過ぎました。七十四回生の現状をお知らせします。

感染症については、濃厚接触者になるケースは数例ありましたが、それ以外の必要な欠席は見受けられません。去る十五日の文理選択説明を行った学年集会においても、七十四回生の生徒にはそのことも伝えました。「迷いや悩みが何もなく、毎日の生活を過ごすことができる人はまずいない中で、当たり前に登校ができていることには感謝する」と、生徒達にも伝えました。

出席の心配がないことには、学習等の負荷が軽いとされることもありすが、逆に物足りなさという負荷がかかり、「だるさ」を感じて学校に足が向かないこともあります。

その意味では、七十四回生は前向きな生活をしてきていると思います。

少し私的なことを。二学期当初から教室棟中二階に、週に二〜三回、数学の復習プリントや大学入試基本問題プリントを約二十枚、籠に入れていきます。強制ではなく、「職員室前の籠に提出すれば、添削をするよ」としていますが、プリントは各回なくなるようになりました。

強要していないこと、意外というのは失礼ですが、自主性を持って提出してくれるメンバー、継続して提出をしてくれているメンバーとの繋がりは、大変心地よいものです。朝、廊下の窓を開けに行く時にプリントの減り方を見るのも楽しみです。

「させる」のはある意味楽ですが、「自らの意思でやる」機会を、この先も七十四回生には増やしていきたいものです。

# ほつとするわ 十月

九月半ばに、前任校の卒業生が本校に私を訪ねてきてくれました。夏休みを利用して、大学のプログラムで、ピッツバーグに語学留学していたことでした。高校時代から留学の憧れは持ち続けていたようですが、部活動や物理的に機会を持つことも難しかったと話しておりました。率直な感想として、他の留学プランとは若干高価ではあったけれども、渡航前に思っていた以上の価値はあったと、力強い眼力で熱く語ってくれました。

彼は、前任校でも長期休暇の度に来校し、その都度いろんな表情を見せてくれました。時には授業に連れて行き、後輩達の前で高校時代のことや、いま何を大切にして欲しいか、などを語らせたこともありました。

高校時代の話と言えば、「怒鳴られた」、「怒られた」、「よく当てられた」、「立たされた」などと、笑顔で

これでもかというくらい楽しそうに後輩達に話っていました。いやいや、褒めることもそれ以上に沢山したはずなのに、その話は「なし(笑)・・・」

ただ、それが何のために為されていたのか「いま」は分かると。その言葉が、教師として「私」に勇気を与えてくれます。まさに、教師冥利に尽きます。

彼だけでなく母校を訪れる者は、後輩達の為に、本音の話をしてくれました。こういったことが引き継がれていき、学校の伝統になるのだと思います。

本校に赴任して半年足らずですが、七十四回生に繋がる「想い」や「勇気」を姫路南高校の卒業生、特に部活動が縁での卒業生から、パワーをもらうこともできました。

こういった話を七十四回生にするのは、小言、耳の痛い話をしなければいけない場合です。そんな話を聞いている生徒の顔は「また自慢？」という顔に

見えることが多いです。

二十代では、

「何故聞こうとしない」

という勢いで

三十代では、

「分からんか、ならば、とことん分かせてやる」

という意地で

四十代では、

「いつか分かる そのときに気付けば良いか」

という待ちの姿勢で、

まるで、信長・秀吉・家康の「時鳥の泣かせ方」

のように心を変革させてきましたが、

五十代では、

「自慢話に聞こえるならば、自慢できる経験を沢

山すれば良い。そして、自慢すれば良い。」

自分の口で胸を張って自慢しろ」

というようになりました。

「経験」は、相手に「本音」を伝え、相手はその

「熱」を強く感じて、自分の行動に返すことができるようになる。

これが、卒業生達が私に伝えてくれたことです。

## 感 ずれば 即 ち 動 く

皆さんにも、人生の大きな選択である第一回文理選択希望調査が実施されました。担任の先生方は、皆さんの将来と真剣に向き合い、人生の先輩としてアドバイスをしてくれます。

勿論、進路選択に必要な教科、科目が何か、受験機会を失うミスがないかを、この機会にしっかりと調べて文理選択をしましょう。

そのうえで、「自分の為に」たゆまぬ努力に励んでいきましょう。

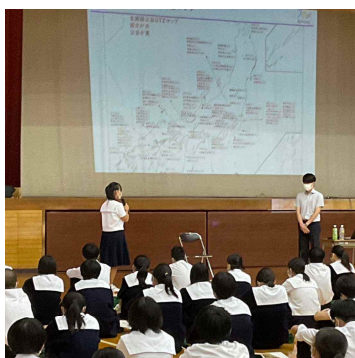
# 進路講演会

去る九月二十二日、講師にベネッセコーポレーションの松原良典様を迎え、七十四回生に向けて進路講演会を実施しました。保護者も、六十名ほどの参加を頂き盛会となりました。

講演内容は、文理選択希望調査に役立つ、あるいは自分の選択に勇気を持つて一歩目を踏み出すことができる内容でした。

平成の時代から現在に至るまで少子化が叫ばれている中、大学や学部数多様化を図り、増加する一方で、進路選択を複雑化させています。

こんな時だからこそ、安易な受験を選択して後悔することのないようにしてほしいものです。



最後には、四組の樽栄結愛さんが全体を代表して、謝辞を述べました。朝から、緊張が続いたようですが、自分の言葉で誠意を込めて、講師の方に向き合ってくれました。貴重な経験を活かして

くれると思います。ご多忙、突然の雨模様の中、多くの保護者の来校有難うございました。心より、御礼申し上げます。

なお、配付させて頂いた資料については、講演のベネッセ様のご厚意で、本校ホームページのトップページにしばらくリンクを貼らせてもらえることになりました。実は、私自身が見るのに辛くて・・・



# 今月の .....の勧め

五月	「無駄」
六月	「諦めない」
七月	「捨てる」
一学期末	「チャレンジ」
九月	「迎える」

九月中旬に、第二回生活実態調査を行いました。ここ数年思うことは、生徒達の生活様式がどんどん個人化、いや、孤独化しているように思います。一昔前は「テレビ」の視聴時間が、ちょっと前は「メール」に費やす時間だったものですが、いまは「スマホ」と共生する時間が、生徒の中心で蠢いています。

## 「そんなことは言わずと知れている 何故孤独化になるの？」

これも言わずと知れた事実ですが、テレビで視聴していないが、スマホアプリでテレビ番組を何倍速かで視聴し、間にSNSを利用し、そのうえスマホでゲームなども.....。本当に高校生は忙しい。ひよっとしたら保護者の皆様も.....。

そこで今月は、家族みんなで「テレビの視聴」をお勧めします。私が高校生の頃は、テレビは一家に一台の時代でした。家族の中での力関係で、観たい番組も観られないこと多かったのですが、テレビを媒体に家族の会話が成り立ちました。

また、合間に流れるCMも、考えさせられること

や学ぶことが沢山あったし、いまのCMも良くできています。お勧めは生命保険のCMですが、そんなことが言いたかった訳ではないのですが、そんなこともテレビにはあります。少しだけ今を振り返っていただいたとき

家族で一日に

### 共有している時間は

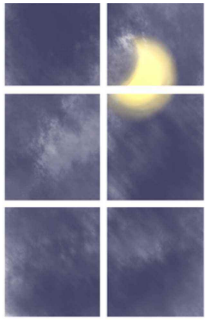
### 会話の量は

### 笑っている時間は

### 聞きたいこと 話したいことは

どれくらい創り出すことができますか？

時間の共有、時間の余裕、無駄と決め込み時間を削るのではなくて無駄と考えることを楽しむ余裕、それを生み出してくれるのは「便利すぎるスマホ」ではなく、一つの部屋で様々な「辛抱・配慮・熱・無駄・ゆとり」を、テレビというメソッドを用いて「心の豊かさ」を感じてほしいものです。



# ほろどするわ 2

九月のある日、本校の馬場先生から心を新たに勇気をもたせる話を頂きました。その話とは、馬場先生が参加された放送部の顧問会議のことでした。

一人の女性が、面識のない馬場先生に、私の名を挙げて話しかけてきたそうです。その女性は、私が赤穂高校全日制に勤務していた時に赤穂高校定時に勤務していた女性でした。私より随分若い年齢の先生でしたが、彼女の勤務時間外にわざわざ私の授業を参観してくれたり、反対に彼女の授業を参観させてもらったり、私も多くを学ばせてもらいました。彼女は程なく結婚し、お子様を授かり産休・育休に入ったので、その後ご無沙汰をしていました。

懐かしさのあまり、彼女の現勤務先の先生も来られる出張が翌日にあつたので、近況や仕事の様子を尋ねる手紙を描いて、併せて「新破天荒」も思わず託けました。

すると、数日後に電話を頂き、懐かしい声に触れることができました。少しの時間、懐かしい話や今抱えている悩みなど、久しぶりに教育談話ができました。お子様も二人となり「賑やかで大変だ」と言いつつ、その声は嬉しそうでした。

そのときに、彼女から「一人目の出産のお祝いに先生にいただいた絵本を私が何度も読んで寝付かせていたのだけれど、いまは下の子を寝付かすために上の子が一生懸命読み聞かせていますよ」という話を聞かされました。

年を取ると涙もろくなるものですね。何よりも、こんな不思議な縁を頂ける幸せを感じさせてもらえることに感謝しつつ、あらためて信念を持って毎日を過ごさないとと思うばかりです。

なりたくてなかった、なれた仕事のはずなのに、気付けば多くの不平を口にした、より良くを求めなくなっていく自分を見つめ直す機会になりました。

# 体育大会



九月二十七日、曇天の小雨の気配と闘いながら、二年ぶりの体育大会が、姫路ウイंक陸上競技場で開催されました。時々薄日が差す時もあり、生徒の皆さんの日頃の行いか、最後まで絶好の運動日和であったと思います。

閉会式、写真撮影を終える頃には天気予報通り、風雲急を告げ、帰宅時に雨にまみれた人もあったと思います。翌日も何事もなかったような登校状態で、七十四回生の出席状況には感心するばかりです。行事の順番で、多くの生徒の活躍した結果を載せるスペースがなく申し訳ありません。応援合戦も含めて、沢山の写真も掲載したいのですが、工夫をしてどこかの機会で紹介したいと思っています。

良き高校時代の一ページを刻んでくれたことは間違いなく、次のステップを踏んでくれると思います。次回は十一月。文理選択の途中経過をお知らせできると思います。